



自然と人々が

調和した街

素晴らしい自然に溢れている熊本。
その自然を損わない調和のとれた景観をつくっていかうと、
現在いろいろな取り組みがなされています。
ここでは、その中から数ヶ所をご紹介します。



5

熊本流通団地

(熊本市流通団地1丁目) (第1回くまもと景観賞)

まっすぐな道、近代的なお洒落な建物。統一された看板。

熊本経済の新しい拠点、熊本流通団地。約52・9ヘクタールの敷地の中には現在95社が入居。その業種は運輸・繊維・食料品・医薬品など多岐にわたります。これらの企業が建築協定のもとに協力して社名入り看板の様式を統一し、「一社一看板」に制限。原色を避けた建物のデザイン、建築の後退、緑化の推進などを実現しました。

北側では良好な住宅地をつくるための区画整理も進められています。道路、公園、学校、消防署、商店街などを設け、「四季を感じ、潤いのある町」づくりも予定されています。次の時代のまちづくりは、既にこの地から始まっています。



5

4

鉄砲小路

(菊陽町 原水) (第1回くまもと景観賞)

肥後入国時、細川忠利は「新地鉄砲者」や「地質」と呼ばれる農兵を熊本府周辺の要地に置いた。彼らは、一刀を帯び鉄砲を持ち武芸に励む一方、山村原野を開墾したという。一鉄砲小路もそうした防衛を目的とした屯田兵村の一つです。

美しく手入れされた路傍の緑。旧藩時代からの広い屋敷割りや大木が、昔の風情を伝えてくれます。生け垣を保全しようと住民運動が盛んになったのは4~5年前。現在は、地区の住民を中心に、緑の消失部分やブロック塀の生け垣への復元に地道な努力が続けられています。



4

3

熊本城前長堀通り

(熊本市 花畑町)

目の前に熊本城を望みながら歩く川辺。現在、歴史の水辺散歩道・歩いてみたくなる歩道が坪井川沿いに長堀通りとして、4月下旬に完成。

歴史や文化に思いを馳せてブラリと歩く都心の散歩道。電線類の地中化はもちろん、茶褐色にグレーの色合の斑岩が敷き詰められている様子は、とても叙情的。3カ所の物見台、14基のガス灯とが熊本城のノスタルジックな雰囲気を盛り上げます。全長263メートルの落ち着いた散歩道は、私達を中世浪漫の世界へと導いてくれるかのよう…。



3

2

関川親水公園

(荒尾市 上井手)

南関町に源を発する川、関川。古くから灌漑用水として知られ、各地に堰が設けられています。この関川の上流に、明治初期、橋本勘五郎が築いたといわれる岩本橋があります。幅4・4メートル、全長32メートル。石造りの二連式眼鏡橋です。昔は旧三池街道として多くの人々が通ったこの橋も、年月が経つにつれて荒れ、橋の下は土砂が堆積し、水が流れない状態になっていました。橋を保存する目的で整備事業が始められたのは4年前のこと。今では、階段式護岸や遊歩道が整備され、水辺で遊べる史跡公園として多くの人々に親しまれています。

1

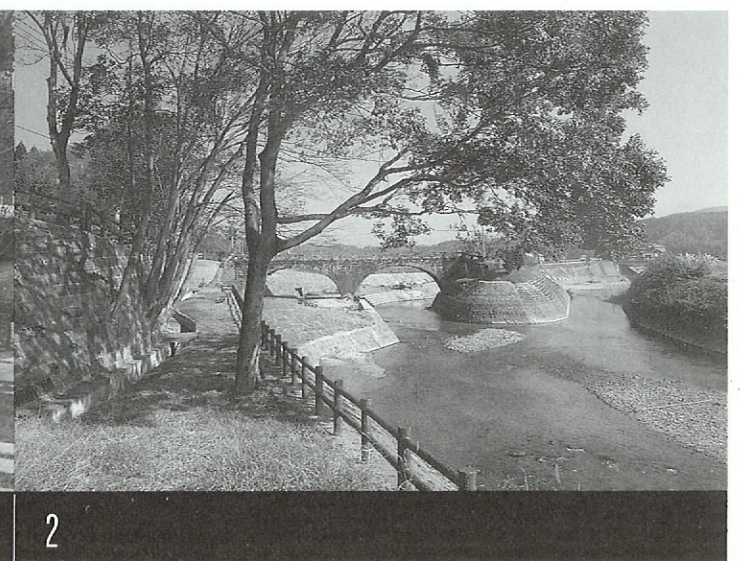
第二空港線

(県道熊本 益城 大津線)

遙かに広がる益城台地。視界良好、遮るものは何もない。彼方に阿蘇の山なみ。やわらかな山肌。

県道熊本益城大津線一通称「第二空港線」沿線は、熊本県が景観整備に力を入れている地域です。熊本空港周辺景観形成地域の一部として、街路樹等の整備など、さまざまな取り組みがなされています。

熊本空港へ続くこの道は、全国各地から訪れる人々の通る道。熊本を印象づける大切な「顔」のひとつでもあり、景観のモデルコースとしても大切な役割を持っているのです。



2